

計算理論 第3回  
チャーチ・チューリングの定立

岡本 吉央  
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2020年10月15日

最終更新：2020年10月19日 08:31

## この講義の主題

### 計算理論 (Theory of Computation)

- ▶ 計算可能性理論 (Computability Theory)
- ▶ 計算複雑性理論 (計算量理論) (Complexity Theory)

## 講義の進め方

- ▶ 前半：計算可能性理論 (担当：岡本)
- ▶ 後半：計算複雑性理論 (担当：垂井先生)

## スケジュール 前半 (予定)

- |   |                |         |
|---|----------------|---------|
| 1 | 計算とは何か？        | (10/1)  |
| 2 | 計算モデル          | (10/8)  |
| 3 | チャーチ・チューリングの定立 | (10/15) |
| ★ | 休み (体育祭)       | (10/22) |
| 4 | コード化           | (10/29) |
| 5 | 計算可能性          | (11/5)  |
| 6 | 停止性問題          | (11/12) |
| 7 | 再帰定理           | (11/19) |
| 8 | 前半のまとめ         | (11/26) |

注意：予定の変更もありうる

### 計算モデルとは？ (直感的な定義)

「計算主体」を数学的に抽象化したもの

#### 代表的な計算モデル

- ▶ チューリング機械
- ▶ ランダム・アクセス機械
- ▶ カウンタ機械
- ▶ ポインタ機械
- ▶ タグ・システム
- ▶ 帰納的関数 ( $\mu$  再帰関数)
- ▶ ラムダ計算
- ▶ マルコフ・アルゴリズム

#### この講義 (の前半) では

- ▶ ある「**単純化したプログラミング言語**」を計算モデルとして用いる
  - ▶ WHILE プログラム (前回紹介した)
  - ▶ LOOP プログラム (今回紹介する)
  - ▶ GOTO プログラム (今回紹介する)

## 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

## 計算可能性の等価性 (1)

## 計算モデルとは？ (直感的な定義)

「計算主体」を数学的に抽象化したもの

## 代表的な計算モデル

- ▶ チューリング機械
- ▶ ランダム・アクセス機械
- ▶ カウンタ機械
- ▶ ポインタ機械
- ▶ タグ・システム
- ▶ 帰納的関数 ( $\mu$  再帰関数)
- ▶ ラムダ計算
- ▶ マルコフ・アルゴリズム

## 数学的事実

これらの計算モデルにおける計算可能性は等価

これらの計算モデルで計算できることは変わらない (と証明できる)

## 計算可能性の等価性 (2)

## 計算モデルとは？ (直感的な定義)

「計算主体」を数学的に抽象化したもの

## 代表的な計算モデル

- ▶ チューリング機械
- ▶ ランダム・アクセス機械
- ▶ カウンタ機械
- ▶ ポインタ機械
- ▶ タグ・システム
- ▶ 帰納的関数 ( $\mu$  再帰関数)
- ▶ ラムダ計算
- ▶ マルコフ・アルゴリズム

## 数学的事実 (2)

これらの計算モデルにおける計算可能性は WHILE 計算可能性と等価

つまり、WHILE プログラムはこれらの計算モデルと同等に強力

## チャーチ・チューリングの定立 (提唱, テーゼ)

## チャーチ・チューリングの定立

我々が直観的に考える「計算できる」ことを  
前のページで挙げた計算モデルによって「計算可能である」ことと見なす

注

- ▶ これは「数学的事実」ではない (証明できない)
- ▶ チャーチ・チューリングの定立を認めれば  
我々が直観的に考える「計算できる」ことは  
「WHILE 計算可能である」ことと見なせる

## 用語の定義：チューリング完全

計算モデル  $M$  が**チューリング完全**であるとは  
チューリング機械で計算可能であることを  $M$  が計算可能であること

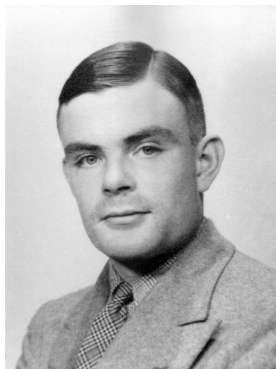
- ▶ つまり, 前のページで挙げた計算モデルはすべてチューリング完全
- ▶ ほとんどのプログラミング言語はチューリング完全



## チャーチとチューリング



Alonzo Church  
(1903–1995)



Alan Turing  
(1912–1954)

<https://mathshistory.st-andrews.ac.uk/Biographies/Church/>  
<https://www.britannica.com/biography/Alan-Turing>

## 今日の目標

## 今日の目標

「計算可能性が等価である」ことの証明ができるようになる

- ▶ 簡単なプログラミング言語をあらたに2つ紹介する
  - ▶ LOOP プログラム
  - ▶ GOTO プログラム
- ▶ この2つと WHILE プログラムの計算可能性を比較する

## 重要な概念

- ▶ チューリング完全
- ▶ 構造的帰納法
- ▶ 計算の模倣

## 復習：WHILE プログラム (1)

機能をそぎ落として、本質的な部分だけを残したプログラミング言語

## データ型

- ▶ 自然数  $0, 1, 2, \dots$  ( $\mathbb{N}$  の要素)

## 構成要素

## 変数

- ▶  $x_0, x_1, x_2, \dots$

## 記号

- ▶  $:=, ;, \text{WHILE}, \text{DO}, \text{END}$
- ▶  $\neq 0, + 1, - 1$

## WHILE プログラムの例

```

WHILE  $x_1 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1;$ 
   $x_1 := x_1 - 1$ 
END;
WHILE  $x_2 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1;$ 
   $x_2 := x_2 - 1$ 
END
  
```

## 復習：WHILE プログラム (2)：文法 (構文論)

## WHILE プログラムの文法 (構文論)

WHILE プログラムは再帰的に定義される

- 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x + 1$ 」は WHILE プログラム
- 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x - 1$ 」は WHILE プログラム
- WHILE プログラム  $P_1, P_2$  に対して,  
「 $P_1; P_2$ 」は WHILE プログラム
- 変数  $x$  と WHILE プログラム  $P$  に対して,  
「 $\text{WHILE } x \neq 0 \text{ DO } P \text{ END}$ 」は  
WHILE プログラム

```

WHILE  $x_1 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ ;
   $x_1 := x_1 - 1$ 
END;
WHILE  $x_2 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ ;
   $x_2 := x_2 - 1$ 
END

```

## 復習：WHILE プログラム (3)：意味論

 $x := x + 1$  $\rightsquigarrow$   $x$  の値を 1 だけ増やす $x := x - 1$  $\rightsquigarrow$   $x$  の値を 1 だけ減らす $x$  の値が 0 であるとき,  $x$  の値を 0 のままにする $P_1; P_2$  $\rightsquigarrow$   $P_1$  を実行してから,  $P_2$  を実行するWHILE  $x \neq 0$  DO  $P$  END $\rightsquigarrow$   $x$  が 0 でない限り,  $P$  の実行を続ける

## 注

- ▶ 変数  $x_1, \dots, x_k$  は入力の値で初期化される
- ▶ その他の変数は 0 で初期化される
- ▶ 変数  $x_0$  が出力を表す

# 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

## LOOP プログラム (1)

## データ型

- ▶ 自然数  $0, 1, 2, \dots$  ( $\mathbb{N}$  の要素)

## 構成要素

## 変数

- ▶  $x_0, x_1, x_2, \dots$

## 記号

- ▶  $:=, ;, \text{LOOP}, \text{DO}, \text{END}$
- ▶  $+ 1, - 1$

## LOOP プログラムの例

```

LOOP  $x_1$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ 
END;
LOOP  $x_2$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ 
END

```

## LOOP プログラム (2) : 文法 (構文論)

## LOOP プログラムの文法 (構文論)

LOOP プログラムは再帰的に定義される

- 1 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x + 1$ 」は LOOP プログラム
- 2 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x - 1$ 」は LOOP プログラム
- 3 LOOP プログラム  $P_1, P_2$  に対して,  
「 $P_1; P_2$ 」は LOOP プログラム
- 4 変数  $x$  と LOOP プログラム  $P$  に対して  
(ただし,  $P$  の中に  $x$  は現れない),  
「 $\text{LOOP } x \text{ DO } P \text{ END}$ 」は LOOP プログラム

```
LOOP  $x_1$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ 
END;
LOOP  $x_2$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ 
END
```



## LOOP プログラム (3) : 意味論

 $x := x + 1$  $\rightsquigarrow$   $x$  の値を 1 だけ増やす $x := x - 1$  $\rightsquigarrow$   $x$  の値を 1 だけ減らす $x$  の値が 0 であるとき,  $x$  の値を 0 のままにする $P_1; P_2$  $\rightsquigarrow$   $P_1$  を実行してから,  $P_2$  を実行するLOOP  $x$  DO  $P$  END $\rightsquigarrow$   $P$  を  $x$  の値の回数だけ実行する

注

- ▶ 変数の扱いは WHILE プログラムと同じ

## LOOP 計算可能性

部分関数  $f: \mathbb{N}^k \rightarrow \mathbb{N}$

定義：LOOP 計算可能性

$f$  が LOOP 計算可能であるとは、  
次を満たす  $k$  入力 LOOP プログラム  $P$  が存在すること

$f(x_1, \dots, x_k) \downarrow \Rightarrow P$  の出力は  $f(x_1, \dots, x_k)$

$f(x_1, \dots, x_k) \uparrow \Rightarrow P$  は停止しない

このとき、 $P$  は  $f$  を計算するという

先の例より、次の (部分) 関数  $f: \mathbb{N}^2 \rightarrow \mathbb{N}$  は LOOP 計算可能

$$f(x_1, x_2) = x_1 + x_2$$

# 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

## GOTO プログラム (1)

## データ型

- ▶ 自然数  $0, 1, 2, \dots$  ( $\mathbb{N}$  の要素)

## 構成要素

## 変数

- ▶  $x_0, x_1, x_2, \dots$

## ラベル

- ▶  $L_1, L_2, L_3, \dots,$

## 記号

- ▶  $:=, = 0, ;, :, + 1, - 1$
- ▶ IF, THEN, GOTO, HALT

## GOTO プログラムの例

```

L1: IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO L5;
L2:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L3:  $x_1 := x_1 - 1$ ;
L4: GOTO L1;
L5: IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO L9;
L6:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L7:  $x_2 := x_2 - 1$ ;
L8: GOTO L5;
L9: HALT

```

## GOTO プログラム (2) : 文法 (構文論)

## GOTO プログラムの文法 (構文論)

GOTO プログラムは次の形をしている

$$\begin{array}{l} L_1: S_1; \\ L_2: S_2; \\ \vdots \\ L_n: S_n \end{array}$$

- ▶  $L_1, L_2, \dots, L_n$  はラベル
- ▶  $S_1, S_2, \dots, S_n$  は文 (次のページで定義される)

## GOTO プログラム (2) : 文法 (構文論) 続き

## GOTO プログラムの文法 (構文論) 続き

GOTO プログラムの文は次のいずれか

- 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x + 1$ 」
- 変数  $x$  に対して,  
「 $x := x - 1$ 」
- ラベル  $L$  に対して,  
「GOTO  $L$ 」
- 変数  $x$  とラベル  $L$  に対して,  
「IF  $x = 0$  THEN GOTO  $L$ 」
- 「HALT」

```

L1: IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO L5;
L2:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L3:  $x_1 := x_1 - 1$ ;
L4: GOTO L1;
L5: IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO L9;
L6:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L7:  $x_2 := x_2 - 1$ ;
L8: GOTO L5;
L9: HALT

```

## GOTO プログラム (4) : 意味論

## 基本

↪ ラベル  $L_1, L_2, \dots$  の順に文を実行する

$x := x + 1$

↪  $x$  の値を 1 だけ増やす

$x := x - 1$

↪  $x$  の値を 1 だけ減らす

$x$  の値が 0 であるとき,  $x$  の値を 0 のままにする

GOTO  $L$

↪ ラベル  $L$  に次の実行を移す

IF  $x = 0$  THEN GOTO  $L$

↪  $x$  が 0 であるとき, ラベル  $L$  に次の実行を移す

HALT

↪ 実行を終了する

## 注

- ▶ 変数の扱いは WHILE プログラム, LOOP プログラムと同じ

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ; ←

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 0$

▶  $x_1 = 2$

▶  $x_2 = 1$



## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ; ←

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 1$

▶  $x_1 = 2$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ; ←

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 1$

▶  $x_1 = 1$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ; ←

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 1$

▶  $x_1 = 1$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ; ←

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 1$

▶  $x_1 = 1$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ; ←

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 2$

▶  $x_1 = 1$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ; ←

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 2$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ; ←

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 2$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ; ←

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 2$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 1$



## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ; ←

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 2$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ; ←

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 1$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ; ←

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 0$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ; ←

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 0$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ; ←

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 0$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT ←

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 0$

## GOTO プログラム (6) : 例の実行

入力  $x_1 = 2, x_2 = 1$  として, 実行してみる

$L_1$ : IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO  $L_5$ ;

$L_2$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_3$ :  $x_1 := x_1 - 1$ ;

$L_4$ : GOTO  $L_1$ ;

$L_5$ : IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO  $L_9$ ;

$L_6$ :  $x_0 := x_0 + 1$ ;

$L_7$ :  $x_2 := x_2 - 1$ ;

$L_8$ : GOTO  $L_5$ ;

$L_9$ : HALT

▶  $x_0 = 3$

▶  $x_1 = 0$

▶  $x_2 = 0$

∴ 出力は 3

## GOTO 計算可能性

部分関数  $f: \mathbb{N}^k \rightarrow \mathbb{N}$

## 定義：GOTO 計算可能性

$f$  が GOTO 計算可能であるとは、  
次を満たす  $k$  入力 GOTO プログラム  $P$  が存在すること

$$f(x_1, \dots, x_k) \downarrow \Rightarrow P \text{ の出力は } f(x_1, \dots, x_k)$$

$$f(x_1, \dots, x_k) \uparrow \Rightarrow P \text{ は停止しない}$$

このとき、 $P$  は  $f$  を計算するという

先の例より、次の (部分) 関数  $f: \mathbb{N}^2 \rightarrow \mathbb{N}$  は GOTO 計算可能

$$f(x_1, x_2) = x_1 + x_2$$



## 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム**
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

## ここからの目標

## 目標

3つの「計算可能性」を比較する

- ▶ WHILE 計算可能性
- ▶ LOOP 計算可能性
- ▶ GOTO 計算可能性

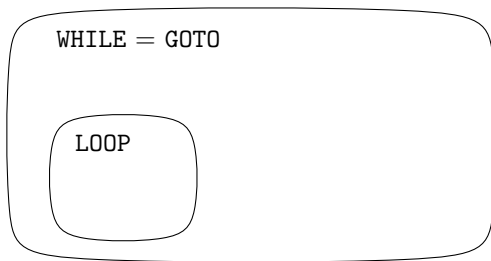
## ここからの目標

## 目標

3つの「計算可能性」を比較する

- ▶ WHILE 計算可能性
- ▶ LOOP 計算可能性
- ▶ GOTO 計算可能性

先に結論



LOOP 計算可能  $\Rightarrow$  WHILE 計算可能

自然数  $k$ , 部分関数  $f: \mathbb{N}^k \rightarrow \mathbb{N}$

### 定理 3.1

$f$  が LOOP 計算可能  $\Rightarrow f$  は WHILE 計算可能

証明のアイデア :

- ▶ LOOP プログラムを WHILE プログラムに書き換える
- ▶ そのためには「LOOP  $x$  DO  $P$  END」を書き換えれば十分

### 用語 : 計算の模倣

LOOP プログラム  $P$  を WHILE プログラム  $P'$  に書き換えることを  $P'$  で  $P$  を模倣するという

模倣 = simulation (シミュレーション)

LOOP 計算可能  $\Rightarrow$  WHILE 計算可能

証明 : 「LOOP  $x$  DO  $P$  END」を次のように書き換えればよい □

```

 $y := x;$ 
WHILE  $y \neq 0$  DO
   $P;$ 
   $y := y - 1$ 
END

```

ただし、 $y$  はどこにも使われていない変数とする。

**注** :

- ▶ 代入  $y := x$  は糖衣構文なので、本来は WHILE プログラムに書き換える必要がある

WHILE 計算可能  $\Rightarrow$  LOOP 計算可能

逆は成り立たない

### 定理 3.2

LOOP 計算可能ではない WHILE 計算可能部分関数が存在する

証明のアイデア：

- ▶ 停止しない WHILE プログラムが存在する (前回の例：inflow)
- ▶ LOOP プログラムは必ず停止する (今から証明すること)
- ▶  $\therefore$  停止しない WHILE プログラムは LOOP 計算可能ではない

つまり,

- ▶ LOOP プログラムでは、全域関数しか計算できない

## LOOP プログラムは必ず停止する (1)

## 補題

LOOP プログラムは必ず停止する  
(つまり, LOOP 計算可能な部分関数は 必ず 全域関数である)

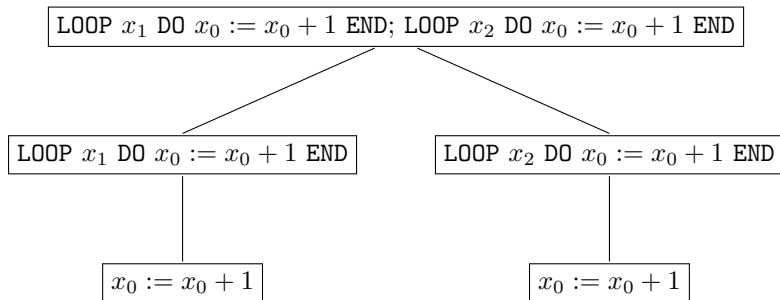
証明のアイデア : 構造的帰納法で証明する

## LOOP プログラムは必ず停止する (1)

## 補題

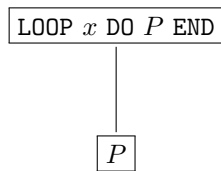
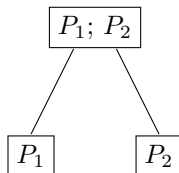
LOOP プログラムは必ず停止する  
 (つまり, LOOP 計算可能な部分関数は 必ず 全域関数である)

証明のアイデア : 構造的帰納法で証明する





## LOOP プログラムの構造

 $x := x + 1$  $x := x - 1$ 

## LOOP プログラムは必ず停止する (2)

補題の証明 : LOOP プログラム  $P$  を考える

- ▶  $P$  がある変数  $x$  に対して「 $x := x + 1$ 」であるとき、 $x$  の値を 1 だけ増加して、 $P$  は停止する
- ▶  $P$  がある変数  $x$  に対して「 $x := x - 1$ 」であるとき、 $x$  の値を 1 だけ減少して ( $x$  の値が 0 のときはそのままにして)、 $P$  は停止する
- ▶  $P$  はある LOOP プログラム  $P_1, P_2$  に対して「 $P_1; P_2$ 」であるとき、 $P_1, P_2$  が停止するならば、 $P$  は  $P_1$  と  $P_2$  を順に実行して停止する
- ▶  $P$  がある変数  $x$  と LOOP プログラム  $P'$  に対して「LOOP  $x$  DO  $P'$  END」であるとき、 $P'$  が停止するならば、 $P$  は  $x$  の値の回数だけ  $P'$  を繰り返し実行して停止する

つまり、どの場合でも  $P$  は停止する



## 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

GOTO 計算可能  $\Rightarrow$  WHILE 計算可能

自然数  $k$ , 部分関数  $f: \mathbb{N}^k \rightarrow \mathbb{N}$

### 定理 3.3

$f$  が GOTO 計算可能  $\Rightarrow f$  は WHILE 計算可能

つまり,

- ▶ GOTO プログラムを WHILE プログラムに書き換えられる  
(WHILE プログラムで GOTO プログラムを模倣できる)

そのために, 糖衣構文を導入する

## WHILE プログラムの糖衣構文：条件分岐 (3)

## 条件分岐の機能

WHILE プログラム  $P$ , 変数  $x$  に対して,

$$\text{IF } x = 0 \text{ THEN } P \text{ END}$$

と書いて,  $x$  の値が 0 であるならば  $P$  を実行する機能を実現したい

注：前回の条件分岐では, 条件が「 $x \neq 0$ 」だった

```
IF  $x = 0$  THEN
   $P$ 
END
```

↔

```
IF  $x \neq 0$  THEN
   $y := y + 1$ 
ELSE
   $P$ 
END
```

ただし,  $y$  はプログラムに出てこない変数

## WHILE プログラムの糖衣構文：条件分岐 (4)

## 条件分岐の機能

WHILE プログラム  $P$ , 変数  $x$  に対して,

$$\text{IF } x = 2 \text{ THEN } P \text{ END}$$

と書いて,  $x$  の値が 2 であるならば  $P$  を実行する機能を実現したい

```
IF  $x = 2$  THEN
   $P$ 
END
```

 $\rightsquigarrow$ 

```
 $y := x; y' := 1;$ 
IF  $y = 0$  THEN  $y' := 0$  END;
 $y := y - 1;$ 
IF  $y = 0$  THEN  $y' := 0$  END;
 $y := y - 1;$ 
IF  $y = 0$  THEN
  IF  $y' \neq 0$  THEN  $P$  END
END
```

ただし,  $y, y'$  はプログラムに出てこない変数

## WHILE プログラムの糖衣構文：条件分岐 (5)

## 条件分岐の機能

WHILE プログラム  $P_1, P_2$ , 変数  $x$  に対して,

$$\text{IF } x = 2 \text{ THEN } P_1 \text{ ELSE } P_2 \text{ END}$$

と書いて、 $x$  の値が 2 であるならば  $P_1$  を実行し、  
そうでなければ、 $P_2$  を実行する機能を実現したい

```
IF  $x = 2$  THEN
   $P_1$ 
ELSE
   $P_2$  END
```

↔

```
 $y := 1$ ;
IF  $x = 2$  THEN
   $P_1$ ;  $y := 0$ 
END;
IF  $y \neq 0$  THEN
   $P_2$ 
END
```

ただし、 $y$  はプログラムに出てこない変数

## GOTO プログラムを WHILE プログラムに書き換える (1)

## GOTO プログラム

```

L1: S1;
L2: S2;
  ⋮
Ln: Sn

```

↔

## WHILE プログラム

```

y := 1;
WHILE y ≠ 0 DO
  IF y = 1 THEN P1 END;
  IF y = 2 THEN P2 END;
  ⋮
  IF y = n THEN Pn END
END

```

$y$  はプログラムに出てこない変数

$P_i$  は、次に説明する通り、 $S_i$  から作られる



## GOTO プログラムを WHILE プログラムに書き換える (2)

$S_i$  が 「 $x := x \pm 1$ 」 のとき

$\rightsquigarrow P_i$  は 「 $x := x \pm 1; y := y + 1$ 」

$S_i$  が 「GOTO  $L_j$ 」 のとき

$\rightsquigarrow P_i$  は 「 $y := j$ 」

$S_i$  が 「IF  $x = 0$  THEN GOTO  $L_j$ 」 のとき

$\rightsquigarrow P_i$  は 「IF  $x = 0$  THEN  $y := j$  ELSE  $y := y + 1$  END」

$S_i$  が 「HALT」 のとき

$\rightsquigarrow P_i$  は 「 $y := 0$ 」

これで、GOTO プログラムを WHILE プログラムに書き換えられる □

## GOTO プログラムを WHILE プログラムに書き換える：例

```

L1: IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO L5;
L2:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L3:  $x_1 := x_1 - 1$ ;
L4: GOTO L1;
L5: IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO L9;
L6:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L7:  $x_2 := x_2 - 1$ ;
L8: GOTO L5;
L9: HALT

```

↔

```

 $x_3 := 1$ ;
WHILE  $x_3 \neq 0$  DO
  IF  $x_3 = 1$  THEN
    IF  $x_1 = 0$  THEN  $x_3 := 5$ 
    ELSE  $x_3 := x_3 + 1$  END
  END;
  IF  $x_3 = 2$  THEN  $x_0 := x_0 + 1$ ;  $x_3 := x_3 + 1$  END;
  IF  $x_3 = 3$  THEN  $x_1 := x_1 - 1$ ;  $x_3 := x_3 + 1$  END;
  IF  $x_3 = 4$  THEN  $x_3 := 1$  END;
  IF  $x_3 = 5$  THEN
    IF  $x_2 = 0$  THEN  $x_3 := 9$ 
    ELSE  $x_3 := x_3 + 1$  END
  END;
  IF  $x_3 = 6$  THEN  $x_0 := x_0 + 1$ ;  $x_3 := x_3 + 1$  END;
  IF  $x_3 = 7$  THEN  $x_2 := x_2 - 1$ ;  $x_3 := x_3 + 1$  END;
  IF  $x_3 = 8$  THEN  $x_3 := 5$  END;
  IF  $x_3 = 9$  THEN  $x_3 := 0$  END
END

```

WHILE 計算可能  $\Rightarrow$  GOTO 計算可能

自然数  $k$ , 部分関数  $f: \mathbb{N}^k \rightarrow \mathbb{N}$

## 定理 3.4

$f$  が WHILE 計算可能  $\Rightarrow f$  は GOTO 計算可能

つまり,

- ▶ WHILE プログラムを GOTO プログラムに書き換えられる (GOTO プログラムで WHILE プログラムを模倣できる)

基本的な考え方

- ▶ WHILE プログラムは「;」でつないだ順に実行される
  - ▶ 例外は「WHILE  $x \neq 0$  DO  $P$  END」だけ
- ▶ GOTO プログラムは前から順に実行される
  - ▶ 例外は「GOTO  $L$ 」と「IF  $x = 0$  THEN GOTO  $L$ 」だけ

## WHILE プログラムを GOTO プログラムに書き換える (1)

WHILE プログラム

$$\begin{array}{l}
 P_1; \\
 P_2; \\
 \vdots \\
 P_n
 \end{array}$$
 $\rightsquigarrow$ 

GOTO プログラム

$$\begin{array}{l}
 L_1: S_1; \\
 L_2: S_2; \\
 \vdots \\
 \vdots \\
 L_m: \text{HALT}
 \end{array}$$

$S_1, S_2, \dots, S_{m-1}$  は, 次に説明する通り,  $P_1, P_2, \dots, P_n$  から作られる ( $S_i$  が  $P_i$  から作られるわけではない)

## WHILE プログラムを GOTO プログラムに書き換える (2)

## 状況

既に,  $P_1, \dots, P_{i-1}$  から  $S_1, \dots, S_{j-1}$  が作られ,  
次に,  $P_i$  を処理するときを考える (次のラベルは  $L_j$ )

$P_i$  が 「 $x := x \pm 1$ 」 のとき

$\rightsquigarrow L_j: x := x \pm 1;$

$P_i$  が 「WHILE  $x \neq 0$  DO  $P$  END」 のとき

$\rightsquigarrow L_j: \quad \text{IF } x = 0 \text{ THEN GOTO } L_\ell;$

$L_{j+1}: (P \text{ を書き換える})$

$\vdots$

$L_{\ell-1}: \text{GOTO } L_j;$

これで, WHILE プログラムを GOTO プログラムに書き換えられる □

**注**: WHILE プログラムのシンプルさの恩恵

## WHILE プログラムを GOTO プログラムに書き換える：例

```

WHILE  $x_1 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ ;
   $x_1 := x_1 - 1$ 
END;
WHILE  $x_2 \neq 0$  DO
   $x_0 := x_0 + 1$ ;
   $x_2 := x_2 - 1$ 
END

```

↔

```

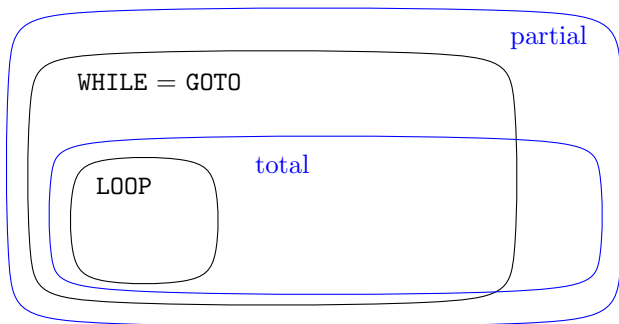
L1: IF  $x_1 = 0$  THEN GOTO L5;
L2:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L3:  $x_1 := x_1 - 1$ ;
L4: GOTO L1;
L5: IF  $x_2 = 0$  THEN GOTO L9;
L6:  $x_0 := x_0 + 1$ ;
L7:  $x_2 := x_2 - 1$ ;
L8: GOTO L5;
L9: HALT

```

## 目次

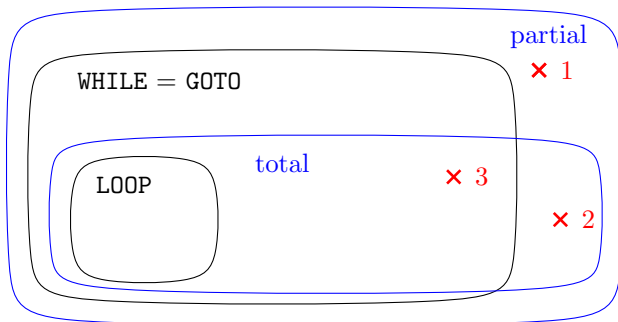
- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ

## 今日のまとめ：計算可能性の比較





## 今日のまとめ：計算可能性の比較



## 疑問

- 1 WHILE 計算可能でない部分関数はあるか？ 具体例はあるか？
- 2 WHILE 計算可能でない全域関数はあるか？ 具体例はあるか？
- 3 LOOP 計算可能でない全域関数はあるか？ 具体例はあるか？

⇒ 後の講義で議論

## 今日のまとめ と 次回の予告

## 今日の目標

「計算可能性が等価である」ことの証明ができるようになる

- ▶ 簡単なプログラミング言語をあらたに2つ紹介する
  - ▶ LOOP プログラム
  - ▶ GOTO プログラム
- ▶ この2つと WHILE プログラムの計算可能性を比較する

## 重要な概念

- ▶ チューリング完全
- ▶ 構造的帰納法
- ▶ 計算の模倣

## 次回の予告

- ▶ 自然数以外のデータを扱う方法  $\rightsquigarrow$  コード化
- ▶ プログラム自体を入力とするプログラム

## 目次

- ① チャーチ・チューリングの定立
- ② LOOP プログラム
- ③ GOTO プログラム
- ④ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと LOOP プログラム
- ⑤ 計算可能性の比較：WHILE プログラムと GOTO プログラム
- ⑥ 今日のまとめ